

米海兵隊機が対艦ミサイル装備

米海兵隊着陸場地（山口県岩国市）にローテーション配備された戦闘攻撃機・F/A-18ホーネットが中国を想定し、対艦ミサイルを搭載して飛行している」とが分かりました。「軍事対軍事」の悪循環を強める危険な動きです。

第一海兵航空団司令部は、海兵隊の部隊展開計画（UDP）に基づき、米テキサス州から配備されている第1-2海兵戦闘攻撃中隊が10月19日、対艦ミサイル・AGM-84 Dヘルブーンを搭載して飛行したことをツイッタードラゴン。司令部は本紙の取材に、今後も対艦

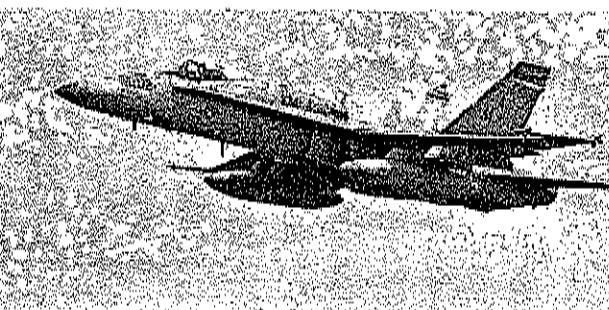
ミサイルを搭載する可能性を認め、「こうした作戦は、我々が自由で闊か

れたインド太平洋を防衛するため、すぐに戦う準備ができる」と示している。「対艦能力は第一列島線沿いの海洋管制・指揮任務にとって重要な要素である」とコメント。米中のせめぎあいになっ

ている、日本の南西諸島から「イリジン」にいたる「第一列島線」で中国艦船を標的にする狙いを示しました。これだけ明確に、他国に対する意思を示すのは異例です。

「对中国」をめぐっては、在沖縄米海兵隊が中國沿岸部に展開し、中国基地に配備されているF/A-18ホーネットが「对中国」の前面に

ミサイルで中国を抑止する「遠征前進基地作戦」(EABO)の具体化を加速。同作戦を担うとみられる海兵沿岸連隊を2027年まで創設するとしてお



岩国基地を離陸する第一海兵戦闘攻撃中隊所属のF/A-18ホーネット＝10月20日（日村良人氏撮影）